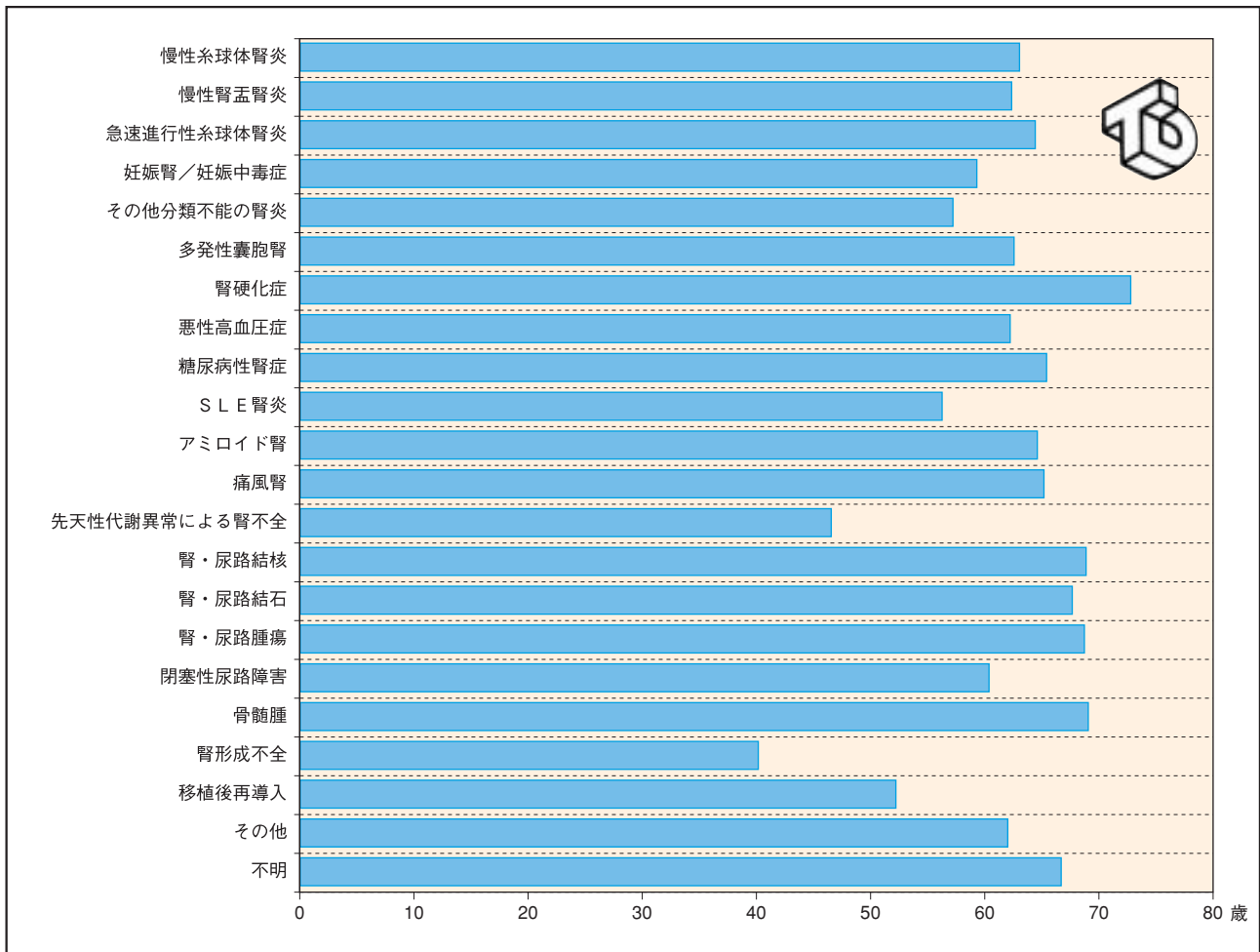


## 4) 年末患者の現状

### (2) 年末患者の原疾患と平均年齢 (図表13)



原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
慢性糸球体腎炎	105,241 (42.2)	63.00	12.90
慢性腎盂腎炎	3,044 (1.2)	62.31	14.31
急速進行性糸球体腎炎	1,600 (0.6)	64.38	14.34
妊娠腎／妊娠中毒症	1,738 (0.7)	59.26	9.89
その他分類不能の腎炎	1,112 (0.4)	57.17	16.92
多発性嚢胞腎	8,433 (3.4)	62.52	10.99
腎硬化症	15,352 (6.2)	72.74	11.92
悪性高血圧症	1,862 (0.7)	62.18	14.40
糖尿病性腎症	80,543 (32.3)	65.37	10.92
SLE腎炎	2,125 (0.9)	56.22	13.56
アミロイド腎	478 (0.2)	64.56	11.52
痛風腎	1,220 (0.5)	65.14	11.50
先天性代謝異常による腎不全	250 (0.1)	46.51	18.29

原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
腎・尿路結核	396 (0.2)	68.83	9.97
腎・尿路結石	534 (0.2)	67.62	11.13
腎・尿路腫瘍	584 (0.2)	68.68	11.91
閉塞性尿路障害	673 (0.3)	60.33	18.30
骨髄腫	216 (0.1)	69.02	11.73
腎形成不全	521 (0.2)	40.12	19.14
移植後再導入	1,751 (0.7)	52.19	12.62
その他	4,330 (1.7)	61.97	16.40
不明	17,472 (7.0)	66.65	13.55
合計	249,475 (100.0)	64.37	12.75
記載なし	482	66.89	12.95
総計	249,957	64.38	12.75

数値右の括弧内は列方向の合計に対する%です。

#### 解説

#### 年末患者の原疾患別人数と平均年齢

年末患者の原因疾患では、慢性糸球体腎炎によるものが第一位であるが、その割合は42.2%で2005年より1.4%少なくなった。糖尿病性腎症によるものは32.3%と第二位であるが、2005年より0.9%増加し、全体の1/3に近づきつつある。経年的にみると確実に糖尿病性腎症による比率が増加していて、近い将来には導入疾患と同様に慢性糸球体腎炎を超える可能性がある。

年末の原因疾患別による平均年齢は疾患により大きく異なるが、いずれの疾患でも平均年齢は高齢化している。全体の平均年齢は64.4歳で、2005年より0.5歳増加した。慢性糸球体腎炎でも63.0歳で2005年より0.6歳増加した。腎硬化症が最も高齢で72.7歳であったが、2005年より0.2歳の増加であった。糖尿病性腎症は65.4歳で0.3歳の増加であった。